



令和7年度 高等部 作業学習の実践事例

題材名：担当した作業を続けてしたり、でき具合を見直したりしながら、決めた仕方で分担した作業を進め、注文を受けたトートバッグを作ろう

授業者：神崎 稔正

作業種目と教材を通して指導すること

本実践で取り上げたトートバッグは生徒の身の回りにもあり、作った製品を家庭で使用できるなど身近なものである。また、長さや織り目などの規格も決めやすく同じ手順を繰り返してできる作業が多いため、規格通りの製品を作るという確実な作業の指導に適している。

また、本実践では、教職員など身近な人からの注文を受けることにより、生徒が作業に取り組む目的やよい製品を作る必要性を感じ、自分から作業に取り組んだり、続けたりする態度、規格通りの製品を作るために決めた仕方で作業に取り組むこと、規格通りになっているかを見直しながら作業を進めたりすることなどが育てられると考えた。

中心となる内容の学習指導要領の段階と内容

職業・家庭科 中学部1段階 【職業分野】 A 職業生活 イ 職業

知・技：(ア)① 作業課題が分かり、使用する道具等の扱い方に慣れること。

思・判・表：(イ)⑦ 職業に関わる事柄と作業や実習で取り組む内容との関連について気付くこと。

学び：将来の職業生活の実現に向けて生活を工夫しようとする態度を養う。

配慮的な内容の学習指導要領の段階と内容

数学科 中学部2段階 A 数と計算 イ

知・技：(ア)⑦ 3位数や4位数の加法及び減法の計算の仕方について理解し、計算ができること。また、それらの筆算についての仕方を知ること。

数学科 高等部1段階 A 数と計算 オ

知・技：(ア)⑦ 2位数や3位数に1位数や2位数をかける乗法の計算が、乗法九九などの基本的な計算を基にしてできることを理解すること。また、その筆算の仕方について理解すること。

題材目標

知・技	側面の編み上げの作業をする時、決めた仕方がわかり、縦バンドと編みバンドの編み目が互い違いになるように編む作業に決めた仕方で取り組む
思・判・表	自分が担当する作業に取り組む時、自分が担当した半製品が仕上がるまで、側面の編み上げの作業に決めた仕方で続けて取り組む
学び	毎回の作業で決めた仕方で自分が担当した作業を終えるまで取り組む
配慮	乗法を用いて合計金額を計算したり、減法を用いてお釣りの金額を計算したりして売上表に記入する

授業評価

知・技	良否の視点シートや良品の規格を確かめるなどして、2色の縦バンドを交互に編み目が互い違いになるように5段続けて編み上げることができた。
思・判・表	2色の縦バンドを交互に編み上げ台に通して編む、編みバンドを規格通りの高さになるように下に詰めるなどして作業を進め、18段編み終えるまで、決めた仕方で続けて作業することができた。
主 体	決めた仕方で半製品が出来上がるまで側面の編み上げの作業に取り組む姿が題材後半の毎回の作業で見られた。
配慮	合計金額を「800(円)×3(個)」、お釣りの金額を「3000(円)−2400(円)」などと立式して、それぞれの金額を求めて、売上表に記入することができた。

良品を作るための仕方を決め、決めた仕方で作業をすることのよさを実感できるようにするための授業展開と働きかけの工夫

良品を作るための仕方の決定(導入)

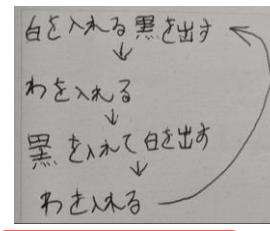


編み目は互い違いになる！

良品を作るための仕方を決めよう。



実際に操作
友だちと相談



この仕方で作業すると、編み目が互い違いになる！

認め
良否の視点シートや半製品の規格から良品を作るための仕方を決めることができたね。
めあてを決めよう！

自己評価(終末)

(振りかえり)
ハンドをあおる時に白、黒がこうくなるようにおも事が出来た。
ハンドをつめる時に下からつめて赤いせんに合わせる。

今日の作業でできたことと気づいたことを振り返ることができたね。決めた仕方で作業をすると、編み目が互い違いになるように編み上げることができたね！

決めた仕方で作業を実施(展開・発展)

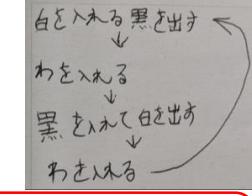
よさを言語化
この仕方ですると編み目が互い違いになります。



(場面を捉えて) よさを聞く
どうして、その仕方で作業をしているの？

意味づける
決めた仕方で作業を進めると、良品ができるね！

めあての決定(導入)



ベージュと黒の縦バンドを交互に編み上げ台に通して編む

考察

○側面の編み上げの工程を担当した4名の生徒が良品の視点を確かめた後に、実際に操作しながら考えたり、友だちと相談したりする場面を設定することで良品を作るための決めた仕方で作業に取り組むことができた。一方で、仕方を決める場面以外は友だちとのやり取りは少なく、個人で作業を進めたり、やり取りの相手の大半が教師であったりした。同じ工程の仲間同士で、作業を進める上で気をつけて共有したり、製品のでき具合や作業の進捗状況などを確かめたりする場面を設定することで、自分の考えを深めたり、新たな気づきを生んだりするための友だちとの対話的な学びができたと考えられる。さらに、自分の工程の作業の進捗や結果が次の工程の作業にどのように影響するか確かめる場面を題材の前半に設定することで、納期に対する作業の進捗状況を考え、より確実に作業をすることの必要性を感じながら作業を進めることができたと考える。